

子どもの本・子どもの文化の未来を拓くために

今年度、移転・再スタートから10周年をむかえた大阪国際児童文学振興財団のこれまでを振り返り、これからを考えるために、5月から、毎月1日付で5回にわたってメールマガジンの特別号を配信してきました。

この10年間、当財団は、大阪府立中央図書館国際児童文学館と協働して資料を収集し、資料の価値を伝える展示やイベントも企画し、実施してきました。また、資料を活用した研究や国際交流などの活動も積極的に行ってきました。

国際児童文学館も、当財団と同様、オープンから10周年ですが、10年間の来館者は約19万人になりました。出版社から当財団に継続して資料を寄贈していただいていることもあって、オープンのときには約70万点だった資料が、現在は、83万点にふえています。これは、世界屈指のコレクションです。

財団のスタッフは、何人かの児童文学研究者をふくんでいますが、私たち自身が切実な問題意識をかかえこんだとき、国際児童文学館に蓄積された資料は、ほんとうに大切な拠りどころになります。資料をもとに、子どもの本・子どもの文化の歴史をさかのぼって考えることができます。

メールマガジン特別号に書き出してきた財団の10年間の成果をもとに、活動をさらに発展させたい—私たちスタッフが、いま、あらためて強く願っていることです。私たちのその願いをかたちにするために、二つのことを計画しています。

一つめは、10周年記念フォーラム「子どもの本の現在(いま)と未来(これから)」の開催です。財団の10年間を支えてくださった皆様にも来ていただければいいのですが、新型コロナウイルスの感染拡大がいまだにおさまりません。フォーラムでお話をさせていただく方たちとスタッフだけで集まって動画を撮影します。登壇者は、宇野和美さん(翻訳家、JBBY副会長)、竹下晴信さん(評論社社長、日本児童図書出版協会会長)、富安陽子さん(児童文学作家、当財団評議員)と宮川健郎(当財団理事長)、司会は土居安子(当財団理事、総括専門員)です。子どもの本の現在について、それぞれのお立場からお話をいただき、子どもの本の未来について考えます。今月、実施し、年内に有料公開をはじめます。くわしくは、追ってまた、ご連絡します。

吹田市万博公園の大阪府立国際児童文学館が廃止されたために、それまで存在した児童文学館の財団への運営委託費はゼロになりました。財団が移転・再スタートしたときから、組織の規模を大はばに縮小して、かつての寄付金を取り崩しながら現在にいたっています。

財団の経営危機を抜け出し、子どもの本・子どもの文化の振興にかかわる活動をより豊かにしていくにはどうしたらよいか。収益事業に関しても様々な

努力をしていますが、10周年の機会に、広く寄付をお願いする予定です。これが二つめの計画です。これについても、後日、あらためてご案内いたしますから、よろしくお願いいたします。

子どもの本・子どもの文化の未来を拓くことは、この国の未来を創造することにほかなりません。ぜひとも財団の今後の存続可能性を見出したい、財団の新しい10年を創り出したいと思います。皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

2020年10月1日

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 理事長 宮川 健郎

メールマガジン特別号の配信は、本号でいったん終了します。
お読みくださって、ありがとうございます。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
